徳島ペンクラブ通信 第201号

2025年（令和7年）8月15日

発行

徳島ペンクラブ

１９６７年（昭和４２年）創刊

◆令和7年度 徳島ペンクラブ総会

5月17日（土）於 阿波観光ホテル 3階 ロイヤルパレスにて

依岡隆児会長

本年度の徳島ペンクラブ総会は、あいにく、雨催いの五月の空のもとでしたが、恙なく開催し遂行されました。例年通り、和気藹々の雰囲気のもと、依岡隆児徳島ペンクラブ会長の「開会の辞」で幕が上がり、続いて作詩家で日本音楽著作権協会（ＪＡＳＲＡＣ）正会員の東根泰章氏の講演「歌謡詩を作って60年」に聞き入った後、総会議事に入り、熱心な議事運びで異事なく進行し、議事はすべて満場一致で承認されました。

そして本年度の主要行事の一つ、県民文化祭のテーマ「記者が見つめた徳島の作家と文学」（仮称）についての説明と、新たな活動として、県立文学書道館との共同事業となる、徳島県ゆかりの作家で、代表作『眉山』の著者、森内俊雄の文学碑を眉山頂上またはその周辺に建立する企画が提案され、承認されました。この件に関しましても、今後会員皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、本総会の圧巻は、参加者自らの近況報告のユーモアあふれる話しぶりが次々に感染し、会場は爆笑に包まれました。アルコール抜きで、これほどの盛り上がりは久しく、会員の連帯意識の表れでしょう。これからもこのような朗らかで楽しい総会でありたいものです。

開会の辞 依岡会長

講師東根様の熱弁

◆令和6年度徳島ペンクラブ賞表彰式

徳島ペンクラブ総会会場にて同時開催

例年通り、ペンクラブ選集第42号に於いて優れた作品を発表された方々に、徳島ペンクラブ賞が、徳島ペンクラブ総会会場にて、依岡会長手ずから授与されました。受賞された方々の栄誉を称え、肖像写真とその作品のタイトルを併せてここに掲示いたします。謹んでお喜びを申し上げ敬意を表します。おめでとうございました。今後とも益々のご活躍を期待いたしますと共に、このコンペティションが増々盛んに繰り広げられることを希望いたします。

賞状授与式

・A部門（散文 小説・随筆・評論等）

ペンクラブ賞「箱膳」

吉田 徳子 様

・B部門（韻文 俳句・短歌・川柳・現代詩等）

タイトル賞「老春って何だ」

東條 孝 様

ペンクラブ賞「空から人が」

山本 枝里子 様

タイトル賞「開けてはならぬ」

松尾 初夏 様

●『徳島ペンクラブ選集　ＰＡＲＴ43』

会員一般作品および丁山前会長追悼文の締切が近づきました。

令和7年9月30日締切（当日消印有効）です。人はいろいろなものを残せますが、今の心の思いを広く永く残すには文章しかありません。「選集」は会員の皆様の、**その心、その思い**を伝え残す拠り所です。こぞってのご投稿を心よりお待ちしています。

●第27回徳島県民文化祭分野別プログラム

今回で第27回を数える徳島県民文化祭分野別プログラムが本年度も開催されます。今回のテーマ名は未定ですが、内容は、記者の立場から見つめた徳島の文学について、徳島新聞社記者　柏木康浩氏の講演を軸とし、同氏と徳島大学教授で徳島ペンクラブ会長、依岡隆児氏のお二人による「徳島の文学の未来」と題しての対談を通して、本県で文学を志す人々の現状と未来を論じて頂きます。文芸に勤しまれる皆様方におかれましては、ご自分の立ち位置を確認する絶好の機会と申せましょう。

ご多用中のことと察しますが、奮ってご参加ください。

1、日程　２０２５年（令和７年）　11月２日

2、場所　徳島県立文学書道館１Ｆギャラリー

（〒770―0807）徳島市中前川町２丁目22―１）

3、開場13時00分　開会13時30分　終了15時30分（以上予定時刻。変更有）

●清々しい秋の文学散歩を行います。奮ってご参加下さい。

秋の文学散歩を計画しております。本年度は徳島市渭北地区に古い時代に開山された3寺院を巡ります。巡るお寺は万福寺、弘誓寺、興源寺の3寺ですが、巡る順番や待合せの時間と場所、駐車場等について、別途ご案内いたします。

秋の文学散歩概要

日時　令和7年10月5日（日）午前9時30分～12時（集合時間　午前9時30分）

案内役　西池冬扇（副会長）様

会費　無料

集合場所　万福寺（徳島市吉野本町5丁目2）駐車場は僅かしか停められません。

文学散歩先の3寺

万福寺　徳島市吉野本町　真言宗大覚寺派　山号　寶珠山　本尊　聖観音

弘誓寺　徳島市下助任町　真言宗大覚寺派　山号　無盡山　本尊　大日如来

興源寺　徳島市下助任町　臨済宗妙心寺派　山号　大雄山　本尊　不動明王

●依岡ペンクラブ会長が、モラエス会より表彰されました。

さる7月1日、潮音寺（徳島市西山手町）でポルトガルの文学者モラエスの97回忌法要が営まれましたが、その時、長きにわたりモラエス顕彰に力を尽くしてこられた他の人々と共に、徳島ペンクラブの依岡会長が表彰されましたことを報告いたします。おめでとうございました。ますますのご精励を期待いたします。

●竹内紘子様の小説『鳥居きみ子』が、全国中学校課題図書に選ばれ、またとくしま出版文化賞を受賞されました

児童文学の竹内紘子様の作品『鳥居きみ子　家族とフィールドワークを進めた人類学者』（くもん出版）が、全国学校図書館協議会などが主催する、第71回青少年読書感想文全国コンクール中学校の課題図書に選ばれ、また第49回とくしま出版文化賞を受賞されました。誠におめでとうございます。今後とも、ますますのご精励を期待申し上げます。

●松田一美様が徳島県歌人クラブ会長に就任！

「徳島短歌」代表で徳島新聞徳島歌壇選者の松田一美様が、「徳島県歌人クラブ」会長に就任されました。氏は、若い人たちへの短歌の啓蒙に尽力されており、今後ますます拍車がかかるものと期待いたします。ご活躍を期待いたしております。

●阿波木偶「三番叟まわし」が韓国春川（チュンチョン）市ウニマ世界人形劇大会で遺産保存賞の遺産賞を受賞しました！

4年に一度開かれるユネスコ事業の一つ、ウニマ（UNIMA 世界人形劇大会）に、日本代表から4名（世界から37名）が受賞、そのうち徳島ペンクラブ副会長の辻本様と、中内様、南様の阿波木偶「三番叟まわし」の御3名が選出され、徳島伝統の民族芸能が世界の舞台で堂々と披露されました。徳島の誇りです。誠におめでとうございます。

●受賞記事の訂正を致します。

徳島ペンクラブ通信第２００号の授賞記事で賞の記述に誤りがありましたので、訂正いたします。誠に失礼いたしました。

（誤）第19回柳壇賞　優秀賞　松尾　初夏　様

（正）第19回柳壇賞　松尾　初夏　様

●令和7年度 徳島ペンクラブ役員紹介

徳島ペンクラブの新役員をご紹介致します。今年度、久しぶりに若々しい新役員がたくさん参画して下さり、本会の若返りが期待されます。新機軸を打ち出したいものです。（順不同、敬称略）

顧問　竹内菊世
参与　岸　積　蔭山美紗子　船越淑子
会長　依岡隆児
副会長　鈴木綾子　西池冬扇　辻本一英　岡本光男
理事　山口久雄　新開秀毅　山本泰正　松田一美　粟谷　健　東根泰章　東條　孝　永松宜洋　住友達也　山崎泰子　関真由子　北野ルル　岩田公次　小林光子　坂井陽　**鎌田正浩　坂下栄治　藤居光夫　伊丹悦子**
（太字は新しく理事になられた方）
〔担当役割〕
会計　松田一美
会費管理　東條　孝
事務局　坂井　陽（局長）　山崎泰子　増田裕子
監事　山上邦夫　藤原真智子
編集　粟谷　健　関眞由子　山口久雄　北野ルル

会員の皆様、今後ともご協力の程宜しくお願い申し上げます。

【ひとりごと欄】

シッド・ハレーが還ってきた

藍　人

シッド・ハレーが還ってきた。と言ってもペンクラブ会員諸氏の誰が彼の名前を知っているだろう。ディック・フランシスの英国を舞台にしたスリラー小説「競馬シリーズ」（全44作）に登場する隻腕の調査員の名である。

「競馬」と銘打っているが、上質のミステリーであり上質の冒険小説でもある。「一作一主人公」を原則としているため一作毎に主人公は異なるが、ハレーだけは4回も登場している。作者のハレーに対する思い入れの深さが窺え、読者にとっても魅力ある主人公となっている。私の「推し」だ。

ディックの死後15年、もう「競馬シリーズ」の新作を読むことはできないと諦めていたが、なんと、彼の息子のフェリックスが「新・競馬シリーズ」を執筆しているという。既に英国では13作まで刊行されていて、その2作目『覚悟』が本年5月、邦訳出版されたのだが、その主人公がシッド・ハレー。5度目の登場なのだ。思わず某書店の店頭で狂喜乱舞したことは言うまでもない。

さあ、スコッチ片手に今宵もページを繰るとしよう。

万博で歌い、三好長慶と徳島をアピール

東根泰章

「徳島県の歴史偉人」を紹介する演歌『三好長慶・天下人』を世界の国から大勢の人が集まった、日本の最大イベント『万博』のEXPOアリーナMatsuri大ステージで、カラオケをバックに生歌で発表しました。

大阪市の夢洲（ゆめしま）に7月4日㈮、ペンクラブ会員で、二十五年前に三好長慶会を結成した出水康生氏らと登壇しました。司会者から、創作にこめた作詩家の心は、と聞かれ『徳島県から出た誇るべき三好長慶の活動の足跡をわかりやすく書き下ろしました。』とこたえ、歌手の立川俊二氏が、熱唱しました。

最高気温34．3で、猛暑日に迫る暑さの中、場内から、応援の手拍子が聞こえ、東根、立川氏、出水氏の三人は顔を向き合い、手ごたえを感じました。

出水氏が、織田信長よりも二十年早い天下人が、三好長慶である！と解説すれば、生誕地の三好市三野町からの武者姿の4人が、ほら貝、鉦の音を響かせ、ステージ下に並ぶ、香川県や大阪市内などから馳せ参じた武者姿の四十人共々、勝鬨の手を挙げ気勢コール

すぐさま、場内に降りると、16，000人収容規模の大会場に、演歌『三好長慶・天下人』の歌が、スピーカーから大きく流れ、8団体、総数750人の場内行列が始まり、25分間にわたり、大パレードしました。

五十年後のロミ夫とジュリ江

今比古

―ロミ夫は2階書斎、ジュリ江は1階台所―

アノなあ、ちょっと。

うん、言うたかな、わからん、たぶん独り言じゃ。

換気扇回りよるけん、とどかん、て言いたいんじゃ。

わざわざ行って言うほどのことでもない、たぶん。

後でならたいて い忘れる。何やったんやろか。

いやいや大事なことじゃ。

愛しとるんか、好きなんか、どっちかよう分らん、このことじゃ！

どっちでもえーか？

どっちでもえーわ、とにかく上がってきてくれる？

エー？何か言うたァ？

エー？聴こえん、用事？

急ぐなら降りてきて言うて。

もう急がんのなら後で言うて。

もう！用無い時は言わんといて！

紛らわしい、急ぐ事なん？

何ブツブツ言いよん。はっきりせんなあ、もう。

ア、またアレじゃ。アイスかみぞれか決めれんのやな。

早う決めな皆溶けるでぇ。

困ったもんじゃ。

徳島ペンクラブ　　令和６年(2024年)度　事業報告

４月	１日	ペンクラブ通信 Part197発行①	ペンクラブ総会の案内 とくしま随筆大賞の募集 徳島ペンクラブ選集part43作品募集他
	初旬	第25回 とくしま随筆大賞 募集開始 主催：徳島ペンクラブ＋徳島新聞社	公募チラシ作成配布 広報・各種マスコミ・各図書館・学校関係他
５月	６日	徳島ペンクラブ総会　10:30～ 会員による講演（松田一美氏）	会場　阿波観光H ・講演・総会・ランチ会食と懇親会
６月	３０日	とくしま随筆大賞　応募作品締切	6／30(金)当日消印有効
７月	１７日	とくしま随筆大賞　一次審査	県立文学書道館
８月	８日	とくしま随筆大賞　二次審査	県立文学書道館
	１５日	ペンクラブ通信　No198発行②	ペンクラブ総会の報告 「ペンクラブ選集part42」の原稿募集
	下旬	とくしま随筆大賞　発表	入賞者発表（徳島新聞掲載・受賞者に連絡）
９月	１８日	秋の文学散歩	「徳島新聞印刷センター見学」
	２２日	第25回 とくしま随筆大賞　表彰式 10：30～11：30 ペンクラブ通信　No196発行③	県立文学書道館　２F講座室2部屋 表彰・講評・朗読 とくしま随筆大賞　入賞者掲載
１０月			
１１月	２３日	第25回県民文化祭 部門別プログラム 「読書のススメ」	文学書道館ギャラリー 依岡隆児 徳島大学教授 及び　文芸評論家　三宅香帆様　講演
１２月	１５日	ペンクラブ通信　No199発行③	とくしま随筆大賞　入賞者掲載
	下旬	「徳島ペンクラブ選集」part42発刊	令和7年1月15日付発行
１月			
２月		第26回とくしま随筆大賞 企画会議 第26回とくしま随筆大賞　募集開始 主催：徳島ペンクラブ・徳島新聞社 ペンクラブ賞　会員投票しめきり	募集要項チラシ作成　後援・助成金の申請 公募チラシ配布 広報・各種マスコミ・各図書館・学校関係他 日時　会場　内容　分野別プログラム申請 各助成金申請
３月		5月開催総会の企画 日時/会場/講演 ペンクラブ選集part43の企画 随筆セミナー(3/29試行)	会場申し込み　講演者（内部）の決定と依頼 4月発行のペンクラブ通信で、原稿募集

①役員会は毎月１回実施。基本的に第２水曜日。（10：00～11：30）会場；県立文学書道館

②各事業は「企画委員会」を開いて原案を作成し、「役員会」で決定します。

令和6年度 収支決算書

（令和6年4月1日～令和7年3月31日）　　徳島ペンクラブ

1　収入の部

科目	決算額	内訳	
会費収入	140,000	令和5年度会費 5,000円×1人	5,000 円
		令和6年度会費 5,000円×27人	135,000 円
負担金収入	483,000	ペンクラブ選集part41)掲載料 2人	16,000 円
		ペンクラブ選集part42)掲載料 40人	386,000 円
		総会参加者 3,000円×27人	81,000 円
補助金収入	1,008,000	県民文化祭助成金(2年分)	608,000 円
		徳島新聞社社会文化事業団(2年分)	300,000 円
		徳島新聞社から随筆大賞へ	100,000 円
協賛金収入	116,000	丁山氏寄付金(10万円)、他	116,000 円
本売上収入	58,040		58,040 円
雑収入	232	利息	232 円
前年度繰越金	640,478		640,478 円
計	2,445,750		

2　支出の部

科目	決算額	内訳	
事業費	805,141	ﾍﾟﾝｸﾗﾌﾞ選集42号印刷代・発送費等	651,554 円
		ﾍﾟﾝｸﾗﾌﾞ通信印刷代・発送費等	42,882 円
		(197.198号)	
		総会費用	101,790 円
		封筒印刷費・ゆうちょ印字費他	8,915 円
通信費	4,914	切手・封筒	4,914 円
会議費	9,400	役員会会場費・コピー代	9,400 円
諸会費	7,000	徳島市文化協会会費・まゆやま掲載料	7,000 円
事務費	4,801	事務用品（インク・用紙他）	4,801 円
特別事業費	777,405	随筆大賞関係	181,876 円
		県民文化祭シンポジウム(2年分)	595,529 円
雑費	35,704	丁山氏へ香典(特例)、振込手数料等	35,704 円
計	1,644,365		

3　差引残高

収入 2,445,750 円 － 支出 1,644,365 円 ＝ 残高 801,385 円(次年度繰越金)

令和6年度の収支決算について監査の結果、適正に処理されていたことを認めます。

令和7年4月30日

会計監査　坂井　陽　㊞

会計監査　住友　京子　㊞

令和7年度 収支予算書

（令和7年4月1日～令和8年3月31日）　　徳島ペンクラブ

A　収入総額　2,046,385 円
B　支出総額　2,046,385 円
C　差引額　0 円

1　収入の部

科目	本年度予算額	内訳
繰越金	801,385	
会費収入	475,000	令和7年度会費 5,000円×95人
負担金収入	480,000	ペンクラブ選集part43)掲載料 60人
補助金収入	250,000	県民文化祭助成金　0円 徳島新聞社社会文化事業団　150,000円 徳島新聞社随筆大賞へ　100,000円
協賛金収入	10,000	各種寄付金他
雑収入	30,000	ペンクラブ選集売上代金等
計	2,046,385	

2　支出の部

科目	本年度予算額	内訳	
事業費	1,150,000	ﾍﾟﾝｸﾗﾌﾞ選集42号印刷代・発送費等	700,000 円
		ﾍﾟﾝｸﾗﾌﾞ通信印刷代・発送費等	50,000 円
		随筆大賞関係	200,000 円
		県民文化祭	100,000 円
		総会・講演会・研修会等	100,000 円
通信費	40,000	切手・封筒	
会議費	30,000	役員会会場費・コピー代	
諸会費	10,000	徳島市文化協会会費・まゆやま掲載料	
事務費	10,000	事務用品（インク・用紙他）	
雑費	7,000	振込手数料・郵送通知料金	
予備費	799,385		
計	2,046,385		

※各科目間の流用を認める

徳島ペンクラブ　　令和７年(2025年)度　事業計画

４月	１日	ペンクラブ通信No.200発行	・ペンクラブ総会の案内 ・とくしま随筆大賞の募集／募集チラシ同封 ・徳島ペンクラブ選集part43作品募集他
	初旬	第26回 とくしま随筆大賞 募集開始 主催：徳島ペンクラブ＋徳島新聞社	応募要領チラシ作成配布 広報・各種マスコミ・各図書館・学校関係他
５月	１７日	徳島ペンクラブ総会　10:00～ 会員による講演（高須郷氏）	10:00～13:30　会場　阿波観光ホテル ・講演・総会・ランチ会食と懇親会
	２X日	県民文化祭　企画委員会①	10:00～12:00　文学書道館またはビオス
６月	３０日	とくしま随筆大賞　応募作品締切	6／30(金)当日消印有効
	２X日	県民文化祭　企画委員会②	10:00～12:00
７月	１６日	とくしま随筆大賞　一次審査	10:00～12:00　県立文学書道館
	２X日	県民文化祭　企画委員会③	10:00～12:00
８月	８日	とくしま随筆大賞　二次審査	10:00～12:00　県立文学書道館
	１５日	ペンクラブ通信　No.201発行	ペンクラブ総会の報告 「ペンクラブ選集part43」の原稿:特集募集 秋の文学散歩　参加申込はがき同封
	下旬	とくしま随筆大賞　発表	入賞者発表（徳島新聞掲載・受賞者に連絡）
９月	２１日	第26回 とくしま随筆大賞　表彰式 10：30～11：30	10:30～11:30　県立文学書道館　２F講座室2室 表彰・講評・朗読
１０月	５日	秋の文学散歩 （渭北地区）	
１１月	２日	県民文化祭 「記者から見た徳島の文学」講演 徳島新聞記者　柏木康浩様	13:30～15:30 県立文学書道館１階ギャラリー
１２月	１５日	ペンクラブ通信　No.202発行	とくしま随筆大賞　入賞者掲載
	下旬	「徳島ペンクラブ選集」part43発刊	令和8年1月15日付発行 とくしま随筆大賞　入賞作品掲載
１月		第27回とくしま随筆大賞 企画会議	10：00～11：30　文学書道館 後援申請　募集チラシ作成
２月		助成金申請 第27回とくしま随筆大賞 企画会議 第27回とくしま随筆大賞　募集開始 主催：徳島ペンクラブ・徳島新聞社 末日：ペンクラブ賞　会員投票締切	県民文化祭助成金、徳島新聞社会文化助成金 募集要項チラシ作成　後援・助成金の申請 公募チラシ配布 広報・各種マスコミ・各図書館・学校関係他 日時　会場　内容　分野別プログラム申請
３月		５月開催ペンクラブ総会の企画 ペンクラブ選集part44の企画	会場申し込み　講演者（内部）の決定と依頼 4月発行のペンクラブ通信で、原稿募集

①役員会は毎月１回実施。基本的に第２水曜日。（10：00～11：30）会場；県立文学書道館

②各事業は「企画委員会」を開いて原案を作成し、「役員会」で決定します。

リレーエッセイ

ひとときき

増田裕子

「この戦争さえなかったら、愛する国のために死ぬより愛する人のために生きたい。」

朝は気ぜわしく、腰を据えて連続テレビ小説を見ているわけではないが、このセリフがストンと心に落ちてふと皿を洗う手が止まった。そうなのだ。あの戦争で死にたかった者など誰もいなかったはずだ。けれども今もこの地球の裏側で愛する人のために生きられず、戦場や故国で多くの人々が命を落としている。犠牲になっているのはむしろ兵士ではなく、一般人や子供達である。

今から5年ほど前、新形コロナウイルスが世界に蔓延し、疫病が収束するのをどれだけ心待ちにしただろう。ところが疫病の収束を待たずしてロシアがウクライナに侵攻し、戦争が勃発した。そして戦争という疫病は他国にも感染し、中東諸国を中心に世界は不安定化し、国連の機能不全をまざまざと見せつけられた。大国も露骨な自国第一主義を掲げ、停戦協定を進めるリーダーシップを発揮できるものがいなくなった。世界の超大国はまるで19世紀に逆戻りしたかのように領土的野心をむき出しにし始めた。心から恐ろしいのはあの時代とは違い、人類がすでに核兵器という破滅的武器を手にしており、ＡＩをはじめＩＴ技術をすべて軍事転用できることである。

一体私たちの社会は持続可能なのか暗澹とした気持ちにおそわれる。戦争は一旦始まると終わりが見えない。力ずくで法も正義もひしゃげられ、独裁的権威主義国家に変容した大国が、他国の武力紛争に歯止めをかけられるはずもない。もはやどの国が他国に戦争を仕掛けようともおかしくない状況になっている。各国とも軍備増強に忙しく、国連の非難決議も無効である。厭な時代の流れの中で今も毎日戦争犠牲者の累計は増え続けている。その数はただの数字の羅列ではなく心奥深くに無力な疼きを覚える。村上春樹氏がエルサレム授賞式で行った『壁と卵』のスピーチが思い出される。「高い壁と、そこに叩きつけられている卵があったら、私は常に卵の側に立つ。どんなに壁が正しく、卵が間違っていても、私は卵の側に立ちます。何が正しく、何が間違っているのかを決める必要がある人もいるのでしょうが、決めるのは時間か歴史ではないでしょうか」。

と彼は語った。

後世の未来に墨汁を投げつけるような行為が収まるのを、私たちは祈るような気持ちで待つしかないのであろうか。

ほんの散歩道

最近書籍を出版された方は、ぜひご連絡ください。掲載します。

『人形のムラⅣ』

本書には辻本一英氏の三編の考察をはじめ水本正人氏、三好兼光氏、山下隆章氏、潟見英明氏がそれぞれのテーマで考察し、「三番叟まわし」・箱廻しの諸相１の研究編を構成している。特別寄稿としてクラウディア・オレンスタイン教授が英文の一文を寄せている。

本書では香川県における『木偶まわし』の事例と、熊本県の「かしら」についての考察も掲載されており、徳島県と比較することにより、「三番叟まわし」の奥深さをうかがうことができる。

●Ａ５判２１２頁　非売品●編集・発行　阿波木偶箱まわし保存会・阿波木偶文化資料館

『台湾の日本語俳句』

本書に収められた句は台北俳句会創立から現在に至るまでの会員の作品の中から選んだ百句で、一季語について一人一句とした。

句の表記は、原則として原典に拠り、ルビについては台湾語・中国語には片仮名、日本語には現代かなづかいの平仮名とした。

台湾独自の季語の分類と解説については、黄霊芝の著作を参考にした。

●新書判（Ｂ40判）２１３頁
●定価本体１５００円＋税
●著者　福島せいぎ
●発行　なると俳句会

あとがき

前年度末月に随筆セミナーを行ったが、その成果が、本年度のとくしま随筆大賞の募集結果に明らかな効果が表れているという。募集を喧伝するだけでなく、やはり応募したくなる気運を盛り上げるための手配りが重要なのだ。個々の書き方にまで立ち入るのは良くないが、書く心構えや楽しみ方、目の付け所などを、経験者の談話として伝えれば、エッセイストはたちまち巷に溢れるだろう。その意味で、今回の随筆セミナーは大成功であり、これからも時と所を変えながら開催すれば良い結果を生みそうに思う。　編集子